

第12回まちづくりシンポジウム

越谷市中央市民会館 2月18日(土)

毎年この時期に行われている発表には今回5地区のコミ協が参加しました。テーマは「地域における伝統文化の継承」に関する事例発表です。

●増林地区の「さわかウオーキング17」(歩きながら歴史を学ぼう)では、郷土研究会の協力を得て12km29力所の史跡を巡り、故郷のよさを発見しようというものでした。

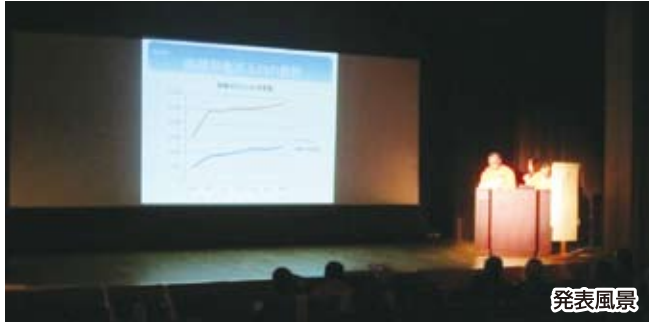
●新方地区の「北川崎の虫追い体験」では、たいまつに火を灯し、あぜ道を行進しながら害虫を追い払い、豊作を祈願する江戸時代から続いている農家の伝統行事の様子を発表、たいまつのたての募調達など苦労されているようでした。

●大袋地区の「越谷梅林公園梅まつり」では、18回目となる梅林公園梅まつりの計画から野点のたてや演奏、踊り、模擬店、児童画コンクールなど催し、今年は開催される2日間、北越谷駅西口から無料シャトルバスの運行状況を説明されました。

●大相模地区の「ひなまつり事業」では、地域の方から寄せられた「年数が経ち飾ることがなくなった雛人形」をきっかけに、地区センター内に華やかに飾り、野点のたてなどを催

し、交流の場としたことが紹介されました。

●当南越谷地区の「南越谷の文化」では、古くからの伝統文化はありませんが、急速に発展して来た地区のあゆみから文化的な事業「フェスティバル」「パレットステージ」「世代間交流」「公民館事業」などの説明と、各自治会に依頼したアンケートの一部を紹介し、これからの文化事業への取り組みを発表しました。 S・S



これからの南越谷のまちづくりに関するご提案

